

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良市立椿井小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒630-8343
奈良県奈良市椿井町25

E-mail tsubei-e@naracity.ed.jp

Website http://www.naracity.ed.jp/ele01/index.cfm/6.html

幼児児童生徒数 男子 117名 女子 94名 合計 211名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「世界にはばたく 世界で生きる 椿井っ子」を学校理念として、ESDを三本柱推進のツールと捉え、ESDの実践を通して言葉豊かに思いを伝え、学び合える力の育成を目標とした。

具体的には、キャリア教育、特別支援教育、国際理解教育を柱に、①国際理解デイに係わる活動、②まいならガイド係わる学習、③日本の音楽に親しもうの学習を行った。

① 国際理解デイに係わる活動

広い視野をもち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図るために次の活動を行った。第4学年児童が、小グループに分かれ、世界の国について調べる。調べたことをプレゼンテーションソフトでまとめ、全校にむけて発表する。発表は、縦割り班で書くブースをまわる形で聞く。発表を聞いた後は、積極的に感想や質問をさせる。その後、全員が体育館に集まり、カナダからのゲストの演奏を聞いた。日本と外国との生活、週間、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づくことができた。

② まいならガイドの学習

総合的な学習を中心に、多角的・総合的に「なら」を題材に学び、地域を誇りに思い、胸を張って地域を語り、仲間と協力して行動できる力を育成することを目指し、次の活動に取り組んだ。第6学年において、第5学年までに学習してきたことを土台に、地域遺産について学習した。「まいならガイド」として、パンフレットにまとめたり、情報発信としてラジオ番組に出演したりした。

③ 日本の音楽に親しもうの学習

第4学年では、音楽科の時間に日本の童歌の学習をしている。その学習の一環として、地域の行事に参加する取組を行った。地域の行事というのは、870年あまり途切れることなく続いている「春日若宮おん祭り」である。このおん祭りの関連行事の一つである「大宿所祭」で童歌を奉納した。地域の行事を身近に感じるだけでなく、参加することで地域に積極的に関わっていく態度を育んでいる。



国際理解デいの発表



童歌の練習

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特にない。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間の指導計画である「奈良市立椿井小学校総合『なら』～世界遺産学習～」に、多角的・総合的に「なら」を学び、地域を誇りに思い、胸を張って地域を語り、仲間と協力して行動できる児童の育成を明記し、調べる・まとめる・発信するの学びのスパイラルを行うことで、探求心やプレゼンテーション力を培っている。
学校アンケートを行い、児童の学びに対する満足度を測っている。集計結果を分析し、三本柱や指導計画の見直しを行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

研究部を中心に研究や取組みを進めている。研究部の中に総合的な学習の時間の担当を置き、ESDの視点に基づいた教育内容、キャリア教育、国際理解教育などを包括的に担当している。担当者が研究部長と協議をして進めている。また、小規模校であるので複数学年で同じ学習活動を計画するなど、弾力的な運用を心がけている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校アンケートを行っている。保護者は、「学校は特色ある教育活動（国際理解教育・キャリア教育・特別支援教育）を行っているか」の問いに対し、92%の肯定的回答を得ている。三本柱が保護者にも理解を得られていることを示している。しかしながら、その教育内容については、保護者にもっと知らせていく必要があることが課題と言える。参観などの場を、これらの広報の場として活用していくことを検討したい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

これまで取り組んできた「まいならガイド」の取組を、昨年度までは、地域の方に発表したり、観光客に手渡ししたりしてきた。地域の方からは、発表内容に加えて、プレゼンテーションソフトを使った発表のスキルの高さに感心していただいている。本年度は、地域のFM曲に協力いただき、特別番組として、取組を発信することができた。取組をラジオ番組としてまとめることで、これまで違った学習のまとめをすることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

コミュニティスクールである奈良教育大学の教職大学院連携校であるので、実習の受け入れという形で協働している。そういった繋がりを生かし、職員研修に協力いただいたり、英語のスピーチ発表を聞いていただいたりと助言を得ている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

できていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域に根ざしたESDの推進により、地域に開かれた学校づくりが進んでいる。ホームページによる地域関連事業の発信の甲斐もあり、ホームページの訪問者が1日平均、50人程度だったのが、100人程度に増加している。このホームページ等を参考に、県外から視察に来ていただいたことはとてもうれしいできごとであった。
学校として取り組むことで、特定の教員の実践ではなく、椿井の教育として根付いている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度においても、「世界にはばたく 世界で生きる 椿井っ子」を学校理念として、ESDを三本柱推進のツールと捉え、活動を進める。地域に根ざした活動に取り組んできたつもりではあるが、来年度は、ぜひ、地域に参画するという視点をもって活動を進めたいと考えている。具体的には、市内他校との交流の中で得た、大和茶の情報を広報したり、地域の祭りで、大和茶を販売することなどが実現できれば思う。実現には、地域の理解と協力がひつようであるが、これまでから培ってきた地域とのつながりを生かし、前へ進めたいと計画している。
その他、これまでからずっと継続してきた取組も脈々と受け継いでいく。